

心にのこる

いろんな話

宇野信夫



講談社

心にるゝんな話

宇野信夫

講談社

◎著者略歴

1904 年埼玉県本庄市に生れ、東京浅草で育つ。慶応義塾大学在学中より戯曲を書きはじめ、1933 年に「ひと夜」でデビュー、1935 年に発表した「巷談宵宮雨」で劇作家第一人者となる。

放送文化賞、芸術選奨、菊池寛賞、大谷竹次郎賞を受賞。1972 年に芸術院会員となり、現在は第三部部長。1985 年に文化功労賞受賞。著書に「ひと夜」「自選作品集」「宇野信夫戯曲選集」「役者と噺家」「大部屋役者」「しゃれた言葉」「江戸の小ばなし」「おけらの夢」など多数がある。

心にのこるいろんな話

1988 年 11 月 30 日 第 1 刷発行

著者——宇野信夫

装幀——安野光雅

定価——1300 円

© Nobuo Uno 1988, Printed in Japan

発行者——加藤勝久

発行所——株式会社講談社

東京都文京区音羽 2 丁目 12-21 〒112-01

電話 03(945)1111 (大代表)

印刷所——株式会社精興社

製本所——株式会社黒岩大光堂

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。

●——送料小社負担にてお取り替えます。

なお、この本についてのお問い合わせは

学芸図書第二出版部あてにお願いいたします。(学二)

ISBN4-06-204184-7 (0)

目次

少年の日	7
凝る ^こ	14
ツイ昨日のことのよう	21
その道にかけては	27
最も苦しい時代	32
たった一度のばくち場見物	39
名人慈恭 ^{じきょう} からきいた名人の話	50
最後の最後の歌舞伎役者	62
むなしき夢	65
棒引き	72

ハンチング 78

隣りのひと 83

恩人六代目菊五郎 90

ほんとうの伝統芸能 96

六日の菖蒲 100

下宿の窓 107

カフウとニフウ 119

つめたいのとあつたかいのと 126

銭湯の風景 132

修身の時間 139

ほんとうの演劇 144

「女中」と「おてつだい」 150

女郎買い青年 162

前座の噺家、高座の噺家 168

指さき寒き夜 173

藪にらみの植木屋 180

頭の上の蠅ハエ 187

冬の雨 193

啖呵たんか 199

美しい小説 205

書齋の風景 210

古い小さな机 215

楽屋の牡丹餅ぼたんもち 222

ある男の一生 その一 228

ある男の一生 その二 241

縁の薄い青年 258

「らしく」 265

浅草の時代 271

トンカツは牛に限る 279

友垣 286

あとがき 292

心
に
の
こ
る
い
ろ
ん
な
話

本文さし絵 著者

少年の日

一

去年から般若心経はんにやしんぎょうを写しはじめた。もちろん深い意味はわからないが、写しているうちはおちついてまことにいい心持である。

おしまい「羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦」ぎやていぎやていはらぎやていはらそうぎやていというところがある。何度も何度も写しているうちに、その文句で少年時代の友達を思いだした。

中学二年の時、高梨勝利たかなしかつとしという同級生、私と同じく日露戦争勝利の年に生れたので、勝利と名づけられたのであろう。父親は代書屋であつた。これが、此の文句を暗記していて、何かというと、「羯諦羯諦波羅羯諦」と言っていた。

おそらく親が信心家で、毎日般若心経をあげていたので、ひとりで高梨は覚えてしまったの

であろう。親ではない、祖母であろう。高梨の家へ遊びに行くと、そのお婆さんは眼鏡めがねを鼻の上にかけて、いつも針はりしごとをしていた。役場のそばの小さな家で、貧しく暮らしていることが少年の私にもわかった。貧しくても、なごやかな家庭で、お婆さんは気軽な人で、高梨を可愛がっていた。

「幾何はむずかしいねえ、代数の方がよっぽどいいよ」などと、私に言った。

高梨が、

「雷は電気と電気がふれあつておこるものだ」と学校で教わったことを言うのと、

「嘘をお言いいよ、お婆さんはランプの時分からゴロゴロ様はきいてるよ」

「弱なき者よ、汝なんじの名は女なり」

高梨がそう言うのと、

「誰がそんなことを言つたんだい」

「シエクスピアだ」

するとお婆さんは眼鏡めがね越しに、

「そんな異人さんときあつちやアいけないよ」

高梨が指の股またのできものをしきりに搔かいていると、

「そんなに気にして搔かいちゃアいけないよ。神経質になるよ」

神経質とか神経衰弱とかいう言葉がはやった大正時代で、お婆さんは、神経質を、できものの疾しと勘違いをしているらしいので、高梨と一しよに笑ったのを覚えている。

私も高梨も、学校は出来のいい方ではなかったから、夏休みの終る頃になると、宿題には閉口した。私は高梨を家へ呼んで、お互いに知恵の出しっこをして、たまった宿題を徹夜でどうにか片づけたことがあった。

高梨は荒っぽい子だったけれども、先生に叱られるとすぐ涙をこぼした。

「高梨コブ梨いくじなし」体操の先生がそんな渾名あだなをつけた。

その頃は中学の四年から大学の予科へ入学することができた。私は浅草の橋場から三田の学校へ通うようになったので、以来高梨と顔をあわせることがなかった。

予科から本科へ入った頃、神保町で本を買った帰り、小川町の電車通りを歩いていくと、交叉こうさ点てんの前の交番に立った巡査が、私を見て敬礼した。見ると、それが高梨であった。びっくりした、と言うと、

「俺は学校はあきらめた。将来は法律で立とうと思っている」

彼は、まぶしそうな眼つきをして、そんなことを言った。大学の制服をきた私の姿を見て、彼は淋しかったにちがいない。あんな乱暴者が、礼儀正しく、言葉づかいも丁寧であった。短い年月のあいだに、彼が相当に苦勞したことは、私にもわかった。

なんとかく
さみしき日には
ぬにそで
汽車れけむりを
あててあけろ

少平の自
らめい



またゆっくり会おう——そう言って別れた。

それから電車で小川町を通るたびに、窓から交番に気をつけてみたが、高梨の姿はその日を限り、一度も見ることがなかった。

戦争で私は中学時代をすごした熊谷へ疎開した。終戦の前夜、熊谷は爆撃で全焼したが、ある日、東京から見舞にきた友人を駅に送つての帰り、焼野原を歩いて行くと、向うからほっつかぶりをした男と出会った。一見浮浪者のような姿の男が、じつと私を見た。鬚^{ひげ}ぼうぼうの汚れた顔の男だけれども、どこかで見たことのある顔だ。すれ違って、ふり返ると、向うもふり返っていた。しばらく歩くうち、ひよつとすると、あれは高梨ではないかと思った。そんな筈^{はず}はないとも思つた。

それから一ト月ばかりたつて、方面委員と会う機会があつた。高梨の話をすると、「それは高梨という男でしょう。無職の浮浪者で、私共が世話をしています、少々頭がおかしいのです」と言った。

二

やっぱり中学二年の時の国語と作文の若い先生、名前は忘れたが、生真面目で、和歌が好きだった。作文の時間に、

「和歌というものは、心に浮かぶままをよむのが一番よろしい。素直な心になれば、誰でも歌を作ることができる」よくそんなことを言っていたが、或る日、みんな一首でいいから来週までに半紙に歌を書いてこいという。

文学少年だった私は、それ程びつくりもしなかったが、友達は殆ど閉口した。それでもみんな歌を書いて出した。先生はよろこんで来週、その批評をしようと言った。

その日があった。先生は集めた半紙をこわきに抱えて教室に入ってきて、苦りきった顔で教壇に立った。

「和歌の形をなすものを書いてきた生徒は只の一人としていない」

みんなしんとしてうなだれると、先生は声を張りあげて、

「諸君のうちに一人、実に驚くべき者がいる。その歌をよんできかせるから皆よく聞け」

先生は一段高い声で、

「年々に思いやれども山水を、くみて遊ばん夏なかりけり——これを出した者は手を上げろ」

先生がそう言うと、井桁という生徒が手を上げた。あまり成績のよくない子であった。おそらく彼は、褒められると思ったのだらう、得意げな顔をしていた。

先生は真ッ赤な顔になって机を叩くと、

「かしこくも、これは明治天皇の御製だぞ！ 何たる馬鹿者！」

その時の先生の昂奮した顔と、「何たる馬鹿者！」と怒鳴った声を、まだ記憶している。
井桁武^{いげたけし}といった。私の家の近所の編物屋の息子で、高梨と同様、お婆さん子であった。
今にして思えば、お婆さんが御製と知らず、井桁に教えたのであろう。
中学を出てから、井桁にあったことがない。戦争で井桁は召集され、遠い島で戦死をしたとい
うことを聞いた。

凝^こる

昭和十九年の早春、浅草の山谷から橋場一帯に強制疎開の命令が出て、私が今の住居（西荻）へ越したのは、同年の五月であった。

あくる年終戦、それから一年ばかりあと、どういうことからか近所の若い洋服屋と知りあいになった。洋服屋といっても店をもっているわけではない。古い傾いた住居に一人住まい。年は私より一まわりも下で仕事もたいてない様子だが、いつも着流しに白足袋^{たび}をはいていた。

鶏^{にわとり}に凝^こつて、傾いた住居をたずねると鶏を薄暗い座敷に飼っている。それも五羽も六羽も。なぜ座敷で飼うのだとたずねると、好きだから始終そばにおきたいのだと言う。

一度洋服をこしらえさせると、どうやっても肩がうまく入らない。何度やり直しても入らない。ズボンもうまく入らない。すると彼は首をかしげて、一体に曲った体制をしておいでなさるらしいと、真面目な顔で独り言をいつている。そんな仕事ぶりだから、おとくいも殆^{ほとん}どないらしい。